

◎「ウクライナ支援」 News Letter (12) 2023年2月12日

ミッション・宣教の声 黒田 禎一郎

主にある皆様へ

いつもウクライナの聖徒と教会のために、忠実に祈りお支えくださり心から感謝とお礼を申し上げます。ここに日本人宣教師として、戦地ウクライナで宣教活動中の船越真人宣教師のレポートを紹介します。

船越真人宣教師は1998年、オデッサへ長期宣教師として派遣されて24年にもなります。オデッサで息子さんも生まれ（今22歳、米国神学校で学習中）、現地の教会活動、様々な宣教活動に携わっておられます。ご本人はまさかこのウクライナが戦場になるとは思っていませんでした。ウクライナは何もかもが劇的に変わりましたが、その特別な時に現地の人々を励まし、支え、福音を語る使命と特権が与えられていることに誇りを思っておられます。身が引き締まる厳粛な状況下で主に仕えておられる神の器です。



実はかつて東西冷戦構造が崩壊し、私がシベリア宣教に日本から何名かの方々をお連れしたことがありましたが、その内の一人が船越真人宣教師でした。彼はそのシベリア宣教が献身の機会となったと言われ、私も驚きを隠せませんでした。主様の尊いご計画を思い、ただ主様を崇めるばかりです。

次は船越宣教師から入った近況の「宣教レポート」です。お祈りください。

ウクライナでは去年2月24日から始まった戦争がもうすぐ1年となります。今まで主が私たちをウクライナで守り、導いてきてくださったことに感謝するとともに、敬愛する先生の尊いお祈りとご支援に心から感謝いたします。私たちが導いているオデッサ教会では、去年の9月から四つのHOPEプロジェクト（HOPE ニコラエフ、HOPE オデッサ、HOPE ソルジャーズ、HOPE スクール）を引き続き行なっています。

HOPE ニコラエフ：

ニコラエフはオデッサの東120kmの地点にある都市です。2月24日にロシアによるウクライナ侵攻が始まってまもなく、クリミア半島から進軍してきたロシア軍がヘルソンを制圧しました。ロシア軍はそのまま西に進んで、ニコラエフ続いてオデッサを制圧することを目論んでいましたが、ウクライナ軍がニコラエフとヘルソンの間でロシア軍の進軍を食い止めたため、そこで長い間、激戦が行われていました（この間、ニコラエフは多大なダメージを受けました）。そこに住む人々は住居を失い、安全な日常生活を失って避難しなければなりません。ニコラエフの北部に広がっている村々にヘルソン、ニコラエフさらに東のドンバス方面からも多くの避難民の方々が避難してきておられます。

HOPE ニコラエフはその方々に支援物資と福音を届ける働きで、オデッサ教会から約10名のチームが2週間に一度（土曜日）ニコラエフ北部の8つの村々で支援物資（食料、医療用品、日常用品、玩具、そして聖書）を配布しています。同時に、その8つの村々の中心となっているマリフカ村では月に一度、子供たちのための「一日キャンプ」を行ない、賛美、ゲーム、聖書の学びからなるプログラムを行なっています。毎回約60名の子供たちが集まり、楽しい時間を過ごしています（子供たちはこの「1日キャンプ」を本当に楽しみにしてくれています）。11月11日にヘルソンからロシア軍が撤退したことにより、私たちはニコラエフからさらに東へも活動の場を広げられる可能性を現在探っています。（ただ、ロシア軍はドニプル川以東に撤退してから、ヘルソンの街への砲撃を始めました。これにより、せつかく解放されたヘルソンから避難しなければならなくなった人々の数が増えるという現象が今起こっています。）続けてこの働きの守りと祝福をお祈りください。

HOPE オデッサ：

被占領地となっている地域や激戦地となっている地域から、多くの避難民の方々がオデッサに来ておられます（特に今、ヘルソンからの避難民の数が増えています）。その人々に食料と衣服を配布することによって教会を通して主の愛を届ける働きをしたい、その願いからHOPE オデッサがスタートしました。現在、日曜礼拝の後に食料と衣服の配布をしています。そのため、食料を受け取る人々の中から日曜礼拝に参加する人々も起こされています。その中から信仰に導かれ、救われる人々が起こされていくように、ぜひ続けてお祈りください。

HOPE ソルジャーズ：

私たちの教会からも4名の兄弟たちが兵役についています。その兄弟たち、さらに教会員の家族、知人、友人で兵役についている人々に救命具・防護具を提供することを通して、いのちをかけて国を守っている人々に私たちの感謝・敬意と主の愛を伝えたいという願いからHOPE ソルジャーズが始まりました。戦場で戦っている彼らのいのちが守られ、1日も早く戦争が収束することを心から願うばかりです。

HOPE スクール：

HOPE プロジェクトに携わっている教会員たちの子供たちの学習を支援するために始まりました。9月から新学期が始まりましたが、オデッサの学校はほぼすべて対面授業が不可能な状態で、オンラインでの授業となっています。しかし、ロシア軍によるインフラへの攻撃のために停電が頻発しているために、そのオンラインでの授業も十分にはできない状況です。そこで、子供たちを教会に集め、教師の資格を持っている教会員たちが子供たちの学習をサポートするためにHOPE スクールが始まりました（子供たちは毎日HOPE スクールを楽しみにしています）。現在八名の子供たちがこのスクールで学んでいます。

9月から行なってきたこれら4つのHOPE プロジェクトに加え、12月からHOPE ウィンターがスタートしました（2月22日まで行う予定です）。

HOPE ウィンター：

11月11日についてヘルソン市が奪還され、解放されました。これはウクライナにとって大きな喜びであり、朗報でした。しかし、恐れていた通り、これに対するロシア側からの「報復」が起り、ウクライナ全土のエネルギーインフラに対する大規模なミサイル攻撃が行われました。戦場で優勢に立っていないロシアは、そのような非人道的な攻撃によってウクライナの民間人が冬を越すことが困難となる条件を作り出し、ウクライナ人の戦意を喪失させ、さらには大量の難民を発生させ、さらにはそれらの難民の受け入れ先となるであろうEU諸国のウクライナ支援に対する足並みを乱そうと企てていたと見られています。

さらに11月、12月、1月にもウクライナ全土に大規模なミサイル攻撃があり、そのうちの多くのミサイルは迎撃されましたが、着弾したものもあり、ウクライナ中の送電網が破壊され、多くの町々で断水にもなりました。寒さが日増しに厳しくなる中、人々の不安は高まるばかりでした。

そんな中、私たちは新しいHOPEプロジェクト、HOPE ウィンターを始めるように導かれました。12月5日（月）から2月22日までの冬の約3ヶ月間、午後5時から9時まで、教会を「明るく、暖かく、楽しい」場所として準備し、人々（子供たちも）が集まってともに夕食をし、ともに賛美し、ともにみことばによって励ましを受け、ともに交わる空間と時間とするプロジェクトです。（現在、教会ではHOPEスクールが朝8：15から夕方5：00まであります。12月5日からはHOPEスクールのすぐ後でHOPE ウィンターが始まり、5時から6時まで夕食、6時から7時までみことばの分かち合い、7時から9時まで自由な交わり、という時間割で行なっています。）このプロジェクトを通して暗くなった街に希望の光が、そして寒くなった街に主の暖かさが教会を通して表され、これを通して主の愛に触れられ、救われる魂が起こされ、神の家族が成長し、子供たちにとっても生涯忘れ得ないような素晴らしい冬となることを心から願っています。



<野外に集う兄弟姉妹>

明日2月12日でHOPE ウィンターは70日目を迎えます。感謝です。このプロジェクトが最後まで（22日まで）守られ、祝福され、用いられるようにお祈りいただければ感謝です。

明日2月12日（日）私たちの教会の二人の兄たち（HOPEプロジェクトのリーダーたち）と家内と私でヘルソン郊外の Cholnoy-Bifka にある教会を訪問し、そこの日曜礼拝で奉仕する予定となっています。今後HOPE ニコラエフをどう拡大するかを今探っています。主の導きをお祈りいただければ幸いです。

2023年2月11日

船越 真人

祈りの課題

1. 戦争が速やかに停止・終息しますように
2. 日本からの献金と支援が用いられますように。
3. 船越真人宣教師が主様に守られ、福音が宣べ伝えられますように
4. きびしい冬季にあっても、生徒の心身が支えられますように。
5. 教会（集会）指導者の上に神の助けと導きがありますように

※ この News Letter は不定期発行で、メール送信しています。